

よこすか 未来会議

マニフェスト 2019-2023

Manifesto 2019-2023

YOKOSUKA MIRAI KAIGI in Yokosuka City Council

目次

このマニフェストについて	2
--------------	---

マニフェスト

1. 行財政改革	3
2. 議会改革	3
3. 多様性	4
4. 子ども	4
5. 教育	5
6. 障害者福祉	5
7. 高齢者福祉	6
8. 医療・保健	6
9. 安全・安心	7
10. 環境	7
11. まちづくり	8
12. 地域交通	9
13. 公共施設	9
14. 地域経済	10
15. 観光	11

会派結成の理念	12
---------	----

進捗管理	13
------	----

このマニフェストについて

●なぜ、この会派を結成したのか

市議会議員は議決や行政監視・政策提言を通じて市民の声を市政に反映することが仕事です。しかし、横須賀市議会40人の議員の中であって、一人でできることには限りがあります。提案だけならば一人でも可能ですが、何かを決める際には最低でも過半数の議員が納得し、その賛成がなければなりません。したがって、考え方や方向性の近い議員が集まって、共通する政策を一緒に進めたほうが実現可能性は高まります。

そこで、2019年4月の選挙後、無所属の議員13人が同じ理念の旗のもと新しい会派「よこすか未来会議」を結成しました。(→P.12「会派結成の理念」参照) 事実上の地域政党と言えるかもしれません。

●一丸となって取り組むマニフェスト

私たちは、政策実現チームです。そのため、会派を結成して最初に取り組んだことがマニフェストづくりでした。

もちろん、それぞれの議員は実現したい政策を持って議員になりましたが、会派としての最大公約数を見出す必要があります。そこで、互いの政策を持ち寄り、3か月をかけて意見をぶつけ合いました。そこでは議論する中で生まれる化学反応もありました。こうしてできた「みんなの政策」だからこそ、会派が一丸となって、その実現に取り組んでいきます。



市民意見を会派ワークショップで整理・共有

●どうやってマニフェストをつくったか

策定にあたっては、個々の議員が普段から集めた市民の声に加えて、2回の広聴会を開催し、改めて多様な市民の声を取り入れる過程を踏みました。また、市内で活動する諸団体の方々と意見交換をし、市行政にも聞き取りを進めて、現状を把握しました。こうした過程を経て、実効性のある政策になるよう心掛けました。



2019年6月の広聴会

●マニフェストの実現に向けて

私たちの任期は、2019年5月～2023年4月の4年間。この任期をかけて、会派全員で協力して実現を目指します。

「マニフェストは、数値目標や基準を掲げて、達成できたかどうか検証可能とするべき」という考え方になるべく沿って、ここでは「取り組んで進捗があったかどうか」を成果指標としました。

実際の取り組みとしては、議会における代表質問・一般質問、各委員会に分かれての質疑、年1回の市長への政策提言などを通して、実現へと動いていきます。この進捗については、年2回の広聴会やホームページ等で市民に公開していきます。(→P.13「進捗管理」参照)

1.行財政改革

●行政改革を進めます

行政事務のあり方を見直し、効率化する方策を、議会側から提案します。電子行政が可能な事業を洗い出し、スマート自治体を推進します。

●近隣自治体との広域行政を進めます

より効果的に行政サービスを提供するため、三浦半島地域における広域行政を進めます。(学校給食・ごみ処理・消防・福祉・教育など)

●データに基づいて政策をつくります

根拠に基づく政策づくり(EBPM: Evidence-Based Policy Making)を進めます。

2.議会改革

●市民の声を聴いて政策に反映させる仕組みを設けます

若者や子育て世代など、これまで十分に把握しきれなかった声にも丁寧に耳を傾け、市民の声を政策に反映する仕組みを設けます。

●議会の「見える化」を進めます

議会の活動をわかりやすく伝え、市民に身近で親しみやすい議会を目指します。



2019年6月広聴会に市民グループの協力で導入したグラフィック・レコーディング

3.多様性

●多様性を尊重し、誰もが自分らしく生きられる横須賀を目指します

多様性に関する理解を促進します。性別・障害・人種・国籍・門地・年齢などを理由に差別されることのない街を目指します。

4.子ども

●待機児童ゼロを実現します

様々な政策を総動員して、待機児童ゼロの達成を目指します。

●全小学校に安心安全な放課後の居場所と学童クラブをつくります

誰もが利用できる放課後子ども教室の全校設置と、学校内で17時以降に実施する安価な学童クラブの整備を目指します。

●社会的養護下の子どもたちを支えます

社会的養護の子どもたちの里親委託率を上げるべく、制度の周知やボランティア・ファミリーの増、ファミリーホームの増設を図ります。



市内5か所の子育て支援施設「愛らんど」を現地視察

5.教育

●子どもたちに適切な教育環境を整備します

子どもたちには、通学距離、クラス人数、教師数、地域コミュニティとのつながりなど、適切な教育環境を確保すべきです。児童生徒数が大幅に減少する中、クラス替えのできない小規模校や、小中学校および地域単位との学区の不整合などの問題が生じています。学区の再編・小中学校の合築・統廃合など、地域事情や長期の社会動向を十分に考慮したうえでの小中学校の再編計画策定を地域との合意形成の下で進めていきます。

●教師の多忙化を解消し、学校教育の質を向上します

教員の働き方改革を進め、教師のワーク・ライフ・バランスを改善させます。さらに、教師が子どもと向き合う時間を確保し、教育の質の向上を目指します。

6.障害者福祉

●障害のある方が活躍できる場を増やします

就労への移行や特例子会社の設立、農業と福祉の連携などを支援し、障害者それぞれの特性に合わせた職場の紹介を促進し、苦手なことを補い、やりがいのある仕事に就けるよう取り組みます。また、市役所において、法定雇用率を早期に達成し、それを上回る障害者雇用を実現していきます。

●障害のある方が社会参加しやすい環境を整えます

歩道切り下げの標準化やみんなのトイレの設置などハード面の整備に加え、障害の特性に応じた情報発信、コミュニケーション手段(手話、要約筆記、点字など)の充実などソフト面も整備し、障害者が社会参加しやすい環境を整えます。

7.高齢者福祉

●高齢者が安心して人生を送れるまちにします

本市が直面する多死社会に対応するため、多職種連携による地域包括ケアシステムを機能させ、在宅看取りへの支援やかかりつけ医の周知など、総合的な対策を講じます。

●ICT活用で高齢者をしっかり支えます

ICTを活用した高齢者の見まもりなどの支援を行います。また、高齢者自身がICTを利活用するための支援も進めます。

●高齢者の社会参加・生涯学習の機会を充実させます

高齢者の社会参加・生涯学習を促進することによって、より生きがいを感じられるようにして生活の質を向上させます。

8.医療・保健

●地域医療体制を強化します

市立うわまち病院の移転先である新病院への交通環境の整備を推進します。併せて、再編することになる地域の診療所との連携についても支援し、地域医療体制を確保していきます。また、市立市民病院に不足している診療科(脳神経外科・小児科・産婦人科)の医師を確保する方策に道筋をつけます。

●自殺対策を推進します

関係機関の連携を深め、包括的な支援としての自殺対策を推進します。様々な悩みを抱えた人に、切れ目なく必要な支援を行い、誰も自殺に追い込まれることのない横須賀市を目指します。

9.安全・安心

●災害に備えた体制づくりを整備します

いざ大規模災害が起こった際、公助が行きわたるには時間がかかるため、まずは自助・共助が重要です。そのため、ハザードマップの改善と普及を進めます。また、避難所運営委員会間の情報共有と水準の向上を図ります。

●災害時の情報伝達方法を改善します

災害時の情報伝達のあり方について、防災行政無線が聞こえにくい問題や地域で生活する障害者を考慮し、最新の技術動向や他市の事例なども踏まえ改善します。

10.環境

●豊かな自然環境に親しみやすくします

里山や海などの自然環境にもっと親しんでもらえるよう、季節ごとのおすすめやマップなどの情報共有を積極的に行います。また、駐車場などを整備することにより、訪れやすい環境を整えます。

●外来生物等への対策を進めます

台湾リスやアライグマなど人の生活と生態系に被害を及ぼす外来生物等の駆除を強化し、近隣自治体や民間企業・市民と協力しながら進めていきます。



市内野比の里山再生

11.まちづくり

●新規のミニ開発を抑制し、再開発や空き家の活用を進めます

人口減少と空き家増の局面における都市計画づくりに鑑み、新規のミニ開発は抑制しつつ、既存市街地の再開発や空き家の活用を促進します。

●駅前再開発に市も参画して、公共施設と一体的に整備します

再開発は基本的に民間の事業ですが、市も参画すれば、再開発を後押しできます。中央・久里浜・追浜それぞれの地域での再開発に、複合型の公共施設を組み込む計画をつくり、まちの魅力向上を目指します。

●問題空き家を予防し、まちの価値を維持します

既に多くの空き家を抱え、今後も大量の空き家が発生すると予想される本市では、そのまま放置すれば問題空き家が続出し、住環境の悪化や地価下落など都市の価値を棄損しかねません。相続や建替・解体など「住まいの終活」を支援することで、問題空き家の発生を予防します。

●小学校ごとの地域コミュニティをつくります

全小学校区に、学区ごとの地域コミュニティ組織(学区運営協議会)を育成します。併せて、小学校を中心とした地域コミュニティの拠点を整備します。



横須賀中央エリア将来イメージ図(横須賀市制作)

12.地域交通

●交通不便地域の解消に向けて公共交通を強化します

西地域や一部の住宅団地といった交通の利便性が低い地域において、コミュニティバスや新たな交通手段等の整備、既存公共交通の輸送力強化を図ります。

●2つの久里浜駅をつなげるなど、交通結節点の強化をします

京急久里浜駅とJR久里浜駅の連絡通路を整備し、再開発と併せて接続します。併せて、JR久里浜駅の東西を結ぶ跨線橋整備について研究します。他地域も含め、交通結節点の強化を図ります。

●国道357号を内陸ルートにして国道16号の渋滞を解消します

国道357号の南下延伸にあたっては、臨海ルートではなく内陸ルートとするよう国に働きかけ、県道久里浜田浦線につなげることで国道16号の渋滞緩和を図ることに道筋をつけます。

13.公共施設

●市民ニーズに応じて貸館施設をリニューアルします

貸館施設は稼働率が低い施設も多く、多額の費用をかけている割に住民満足度の向上につながっていません。用途の見直しや必要な設備投資によって、もっと市民ニーズに応えられる施設へ転換します。

●地域の声を聴いて公園のルールと設備を見直します

街区公園は低利用のものが多いため、住民の意向をしっかりと把握して地域ごとに公園の機能分担をはかり、様々な活動に使われるようルールや設備を見直します。

●近現代史を伝える博物館を整備します

近現代史資料館(軍港資料館)を整備します。

14.地域経済

●起業・創業・中小企業の経営の悩みを支援します

市内での起業・創業が増え、事業所数で8割を占める中小企業が元気になれば、地域経済に活気が出ます。地域密着のスモールビジネスから全国展開を目指すベンチャーやスタートアップまで、業態を問わずワンストップで支援する体制を強化します。経営者の抱える様々な課題に対し、先進事例も参考に、経営戦略・営業・財務・資金調達などについて専門家が相談に応じる体制を整えます。

●外国人の消費を喚起するためキャッシュレス化を推進します

横須賀基地で働く米国人や外国人旅行客など、現金を扱う際の言葉の不安や不便さから買い物を遠慮する方も多いと言われます。また、現金決済の店舗を避ける市民も増えています。そこで、クレジットカードや電子決済への対応を支援し、市内での消費を増やします。

●商店街を居心地のいい空間にし、人の流れをつくります

高齢者や子連れママ・パパにとって、気兼ねなく使えるトイレや気軽に座れる場所は買い物先を決める時にとても重要で、どうしても大規模店舗に人が流れがちでした。そこで、公民連携により商店街にキレイなトイレやベンチなどを用意し、地元商店街をみんなの居場所にします。

●企業誘致の奨励策を改善します

既存の企業等立地促進制度を改善し、より広い規模と業種の事業者による市内立地を誘導する制度を創設します。その際、現在ミスマッチが起きている職種については奨励制度を改善するなど、雇用対策とも連動した制度設計を目指します。



YRPを現地視察

15.観光

●観光資源に磨きをかけ、観光客の満足度を向上します

観光資源に恵まれた本市ですが、観光客に背景や物語を含めて魅せることが十分にできていません。観光資源の意義や価値が伝わるようソフト面・ハード面を整備し、おもてなしの啓発も含めて、満足度の向上を図ります。

●海辺を効果的に活用した観光地を実現します

Park-PFI等を活用した海辺へのレストラン誘致や釣りの名物スポット創設など、海辺を活用したまちづくりを進めます。

●歴史遺産に正面から光を当てた観光資源の活用をします

市内各地に点在する歴史遺産を生かした観光ルートの開発を進めます。



人でにぎわう猿島

会派結成の理念

私たち「よこすか未来会議」のメンバーは、横須賀市の輝かしい未来を展望し、以下の理念に基づき活動する。

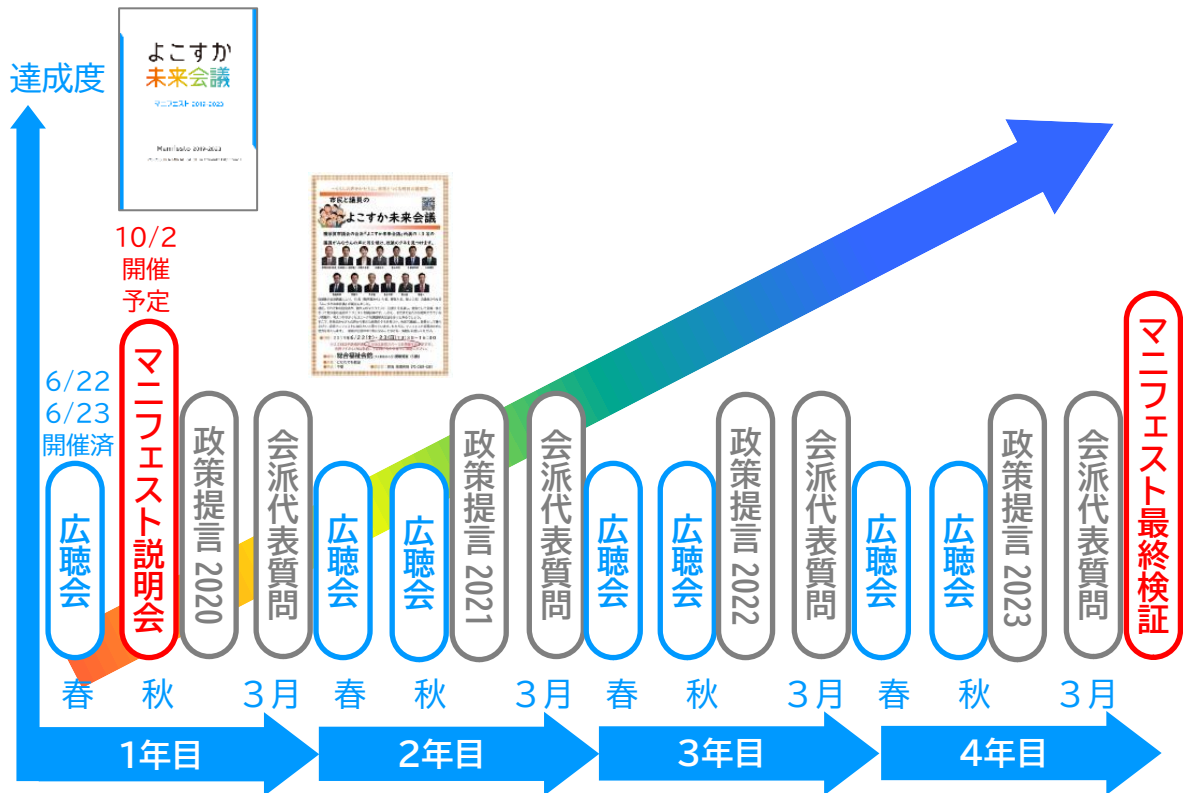
- 一、市民の福祉の増進を最優先に考え、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指す。
- 二、市民の代表であることを自覚し、二元代表制に立脚して是々非々の立場を堅持する。
- 三、市民の意見に耳を傾け、常に問題意識を持ち、その対応に向けて互いに切磋琢磨しながら議論を深め、建設的な政策提言を行う。
- 四、市民から信頼される議会を創るべく、議会改革を推進し、自由闊達な議論を重んじ、議会の持つ機能を発揮する。
- 五、未来の世代を考え、物事を先送りせず責任ある判断を行う。

2019年4月24日



進捗管理 ~マニフェスト達成への道のり~

このマニフェストは、大小2つのPDCAサイクルを回して政策形成&政策反映していきます。



なお、進捗は随時、会派Facebookページでもご報告していきます。

→<https://www.facebook.com/yokosukamiraikaigi/>

よこすか未来会議

検索



●単年度のPDCA サイクル

・秋の広聴会

市民の声に耳を傾け「政策のタネ」を拾い集めるとともに、市民の想いと会派の方向性に「ズレ」が生じていないか確認します。



2019年6月の広聴会

・政策提言

毎年秋に、市長への政策提言(旧予算要望)を提出します。これにより、予算編成時における政策反映を図ります。

策定にあたっては、マニフェスト達成への寄与と市民意向を統合させます。

・代表質問

毎年3月定例議会に実施される会派代表質問にて、執行機関への提言型質疑によって、政策反映を図ります。代表質問にあたっては、会派視察や事務事業調査を通じて得られた知見を活かします。その他、各議員が手分けして本会議・委員会で質疑し、マニフェスト達成につなげます。

・春の広聴会

新年度にあたって1年分の中間検証をします。前年度の政策提言が新年度予算にどの程度反映されたのか、代表質問によってマニフェストがどこまで進展したか、わかりやすくご報告します。

その上で、改めて市民の声に耳を傾け、現状への市民評価を把握し、新年度に取り組むべき課題を確認します。

●任期4年間のPDCA サイクル

・最終検証と外部評価

1年ごとの中間検証に加え、最終年度には最終検証大会を開催し、市民の皆様にもマニフェストの進捗をご報告します。これを選挙時の判断材料として頂きます。

検証にあたっては、自己評価に加え第三者による外部評価を導入し、客観性を担保します。



会派でマニフェストを検討

よこすか 未来会議

マニフェスト 2019-2023

よこすか未来会議

検索



〒238-8550 神奈川県横須賀市小川町 11 横須賀市議会気付
TEL:046-822-8460 FAX:046-824-2663
E-mail: miraikaigi0422@gmail.com

Manifesto 2019-2023

YOKOSUKA MIRAI KAIGI in Yokosuka City Council



伊関功滋(団長) 永井真人(副団長) 小幡沙央里 加藤ゆうすけ 嘉山淳平 工藤昭四郎 小林伸行



高橋英昭 竹岡力 角井基 長谷川昇 葉山なおし 堀りょういち